

年度評価シート

課名 文化振興課

施設の名称 静岡音楽館	指定管理者名 (公財) 静岡市文化振興財団
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務</p> <p>建築基準法に基づく建築設備、昇降機の定期点検及び自家用電気工作物点検業務等について、第三者委託により実施し、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。</p> <p>また、音響設備の部品交換や照明器具等29件の修繕を実施し、来館者が安全で快適に利用できるよう、音楽ホールとしての質の高さの維持に努めている。</p> <p>(2) 施設利用率・定員に対するコンサート入場者数の割合</p> <p>① 施設利用率</p> <p>令和3年度の来館者数は51,090人(主催事業9,970人、貸館41,120人)、施設利用率(ホール、講堂、リハーサル室の平均)は68.7%であり、前年度(来館者数29,626人(主催事業6,422人、貸館23,204人))、施設利用率63.3%)と比較し、来館者数は大幅に増加、施設利用率は5.4ポイントの増加となったが、指定管理者業務仕様書で定めた施設利用率84.0%は達成できなかった。新型コロナウイルス感染症拡大による利用キャンセルや利用控えが影響しているものと考えられるが、前年度よりも利用状況は改善している。</p> <p>② 定員に対するコンサート入場者数の割合</p> <p>令和3年度の有効座席に対するコンサート入場者数の割合(ホールを使用するコンサート(公演等事業)が対象)は54.7%であった。指定管理者業務仕様書で定めた目標の70%を下回ったのは、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛も影響しているものと考えられる。</p> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>静岡音楽館の主催事業は、「公演等事業」「普及振興事業」「支援育成事業」「他施設との連携事業」を中心としている。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業が延期や中止となったが、感染症対策を行いながら、概ね事業計画のとおり実施された。</p> <p>① 公演等事業</p> <p>「コンサートシリーズ」は、「公演等事業」の核として展開し、著名な国内外の演奏家によるホールの音響特性を活かした公演、日本の伝統文化を取り入れた公演等様々なジャンルにより実施している。公演等事業(17回、うち2回中止)の合計入場者数は4,725人となり、前年度の2,975人(16回、うち3回中止)から増加した。前年度は販売席数を定員50%に減らしていたが、令和3年度第2期から全席販売としている。コロナ禍においても感染症対策を行いながら市民が公演を楽しめる環境を維持していることを評価したい。</p>	

② 普及振興事業

「普及振興事業」では、昨年度は中止した「AOIのオープン・デイ」を感染症対策をとりながら開催した。本来は気軽に来館してもらうことを目的とした事業であるが、事前申込制とする等、コロナ禍でも、事業を継続させ、新たな客層の獲得及び認知度の向上へと繋がるよう努めている。前年度は中止となった特別支援学校や清水区におけるアウトリーチ事業も再開できた。

今後も「市民が音楽を身近に体験することができる機会の提供」を行うとともに、静岡音楽館の認知度向上にもつながる事業として積極的に取り組んでほしい。

③ 支援・育成事業

「支援・育成事業」においては、前年度中止となった「静岡の名手たちオーディション」を開催し、例年実施している合格者によるコンサートも開催することができた。

また、市民の発表機会を提供する「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、初めてオンラインによる生配信を行い、コロナ禍でも地元静岡の音楽家を発掘・育成する取組みを継続的に行うことができたことを評価する。

④ 他施設との連携事業

静岡科学館及び静岡市美術館との「3館連携事業」を中心に生涯学習センター等他施設との連携を実施した。ミュージアムコンサート等は各施設の来館者が相互に足を運ぶきっかけとなっており、市民に多様な文化に触れる機会を提供するとともに、中心市街地の回遊性を高め、まちなかの賑わいの創出にも貢献している。

また、自主事業として静岡市民文化会館を会場に開催した「新文化島～探検・発見・出会いのフェスティバル～」事業は、文化施設だけでなく生涯学習センターとも連携し、各施設の魅力を横断的にアピールすることができた。

主な事業の入場者数等実績は、以下のとおり。

事業内容	入場者数	目標値
公演等事業（一部中止）	4,725人	6,835人
普及啓発事業	1,719人	—
支援育成事業（一部中止）	880人	—
その他連携事業	5,512人	—

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切な対応がとられている。即時の対応が困難な要望に対しても前向きに検討しており、良好な対応がなされているといえる。

また、静岡音楽館では芸術監督制度を採用し、その下に企画会議と市民会議を設けている。外部からの意見や要望を積極的に取り入れる体制を整え、より良好な管理運営を目指している点は評価できる。コロナ禍でオンラインや回数を減らしての開催となっているが、これからも施設運営や事業計画に多様な意見を取り入れてほしい。

[具体的な意見・要望と対応状況]

〈職員の対応等〉

意見等：分散退場の案内方法を工夫してほしい。

対 応：全公演共通で退場の順番を運営し、チケット販売時にも案内している。また、ロビーの混雑状況もみながら、アナウンスの方法もより工夫していく。

〈施設管理等〉

意見等：座席の番号が見えにくい。

対 応：ボランティアスタッフの声掛けにより、わかりやすい案内を心がける。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

各コンサートの入場者へアンケートを実施し、18回の満足度調査を行ったところ、「非常によい」又は「よい」と回答した人の割合は平均97.6%という高い評価を得ることができた。満足度100%の公演も2回あった。

(2) 市民アンケート

令和3年度に文化施設等で実施した市民アンケートによると、静岡音楽館の認知度は73.0%（令和2年度 71.6%）、利用度は46.2%（令和2年度 45.0%）という結果になり、前年度と比較し認知度、利用度が微増した。引き続き事業内容の広報だけでなく市民が気軽に来場できるイベントを企画し、施設の魅力をアピールする取組を行いながら、認知度や利用度を高めていくことを期待する。

(3) その他の調査

施設内に投書形式の「利用者の声」を設置し、施設利用者に随時、意見・要望や施設満足度について調査している。各項目の「満足」「やや満足」の回答率は下記のとおり。

- ① 職員の応対 76.6%（前年度 78.2%）
- ② 清掃、整理整頓 78.6%（前年度80.0%）
- ③ 案内表示、掲示板 72.6%（前年度 74.1%）
- ④ 開館日・開館時間 71.4%（前年度 72.0%）
- ⑤ 空調・音響・照明等 74.3%（前年度 75.4%）

前年度より「満足」「やや満足」と回答した人の割合がやや減少している。引き続き、利用者への応対を中心に、より意識を高め取り組んでもらうよう期待する。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務の収支状況については、新型コロナウイルスの影響を除いて概ね予算のとおりに執行されており良好である。指定管理業務の事業内容をより充実させるため、国等の補助制度を積極的に活用している。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

〈新型コロナウイルス感染症への対応〉

新型コロナウイルス感染症への対応については、国等のガイドラインに沿った適切な対策を講じており、利用者への周知については、速やかに掲示での周知やホームページへの掲出を行う等、適切な時期・方法により行われている。

事業については、オンライン配信の利用などコロナ禍を踏まえた手法を検討しながら事業を実施している。

管理運営全般に関しては、事業計画に従い概ね良好に実施されている。

施設管理については、静岡中央郵便局との合築建物であることから、日常的に情報交換を行いながら良好な関係を保ちつつ、必要な保守点検を行っている。

貸館事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響による利用控えがあるものの、利用状況は前年度より回復傾向にある。感染症対策を講じながら、引き続き施設利用拡大に向けた広報に努めていってほしい。

主催事業のうち、公演等事業においては、ホールの音響特性を活かした上質な音楽を提供する「コンサートシリーズ」だけでなく、「オルガン¥500コンサート」など市民が気軽に音楽を楽しむことができる機会も継続して設けている。普及振興事業として施設外に出向く「アウトリーチ事業」や、「0歳児からのファミリー・コンサート」や「小学校高学年のためのオルガン・コンサート」といった音楽を身近に感じてもらう取組、次世代を担う子どもたちの感性を磨く取組も継続して実施している。今後も、公演等事業・普及振興事業ともに、市民の鑑賞機会拡大や地域の音楽家の支援・育成のため更なる事業内容の充実を期待する。支援育成事業として実施した地元音楽家の発表の機会を提供する「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、初めてオンラインでの生配信を実施している。有観客の良さも大切にしつつ、オンライン等の新しい取組も活用しながら、引き続き、音楽家の活動を積極的に支援していってほしい。

また、静岡科学館及び静岡市美術館との3館連携事業においては、音楽、科学、美術という各施設の特徴を活かした事業を連携して実施することで、来館者が相互に行き交い、静岡駅周辺の回遊性を生み中心市街地の賑わい創出に貢献しているといえる。他館来館者を呼び込む機会ともなり得るため、積極的に施設の魅力を発信する機会としていってほしい。

より多くの人々に静岡音楽館を知ってもらい継続して来館してもらうためにも、引き続き、事業内容の充実や広報手段の工夫に努めていくとともに、静岡音楽館の使命である「広く市民に音楽に触れる機会を継続的に提供」していくことを、今後も期待する。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。